

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職をめざす学生・卒業生のために

COMPASS

第 117 号 2017.1.28(土) 発行

関西外国語大学
教職教育センター

SCET

あけましておめでとうございます

2017年1月丁酉(ひのと・とり)、酉年は商売人にとって、より実りの多い1年になる予感のある年。また、成果が得られる区切りの年になる可能性があると言われていています。運氣や有効な情報を取り入れ、自分にとっても実りある1年にしたいものです。また、人生を考えるのに向いた年とも言えます。2017年は酉年の利点を生かし、直観力と行動力を見習い、より積極的に活動できる1年としたいもので、学生にとっても、豊かな自己実現の年となるよう期待しています。

2017年4月、教職の学生たちが全国各地の小・中・高等学校の教員として新しい社会に巣立っていくこととなります。昨年4月から教員採用対策の夜スペシャル、合宿、夏スペシャルと大変ハードな取組を乗り越え、一人ひとりの学生が教員としての自覚を高め、潜在的能力を引き出し伸ばしてきました。これまで中・高等学校の英語教員は多数輩出してきましたが、今年は小学校教員コースの1期生が教師として新しいスタートを切ります。卒業生が互いに切磋琢磨して妥協をすることなく自分の持つ教育観・指導観を胸に秘めながら日々の教育実践に向き合ってくれることを願っています。

後輩の教職をめざす学生は、先輩の奮闘を見て夢を描き、後ろ姿を追いかけています。

ICCでは自主ゼミの学生、教職をめざす学生の相談活動、小学校英語のボランティアグループの学生の取組などで、新年早々から活気づいています。とりわけ、3回生、4回生が教員採用選考にむけて「自主ゼミ」を始動させており、現在、7つのグループが7~8人で、TOEICスコアアップ、教職教養、教育時事問題の討論に取り組んでいます。みんな真剣で、自らに課題を課し、他者と学び合い、彼らが互いに情報を交換し合い切磋琢磨する姿は大変頼もしいかぎりです。学生たちが自ら学び合いの場をつくり、互いに教え合うことは真に教師をめざす者の姿そのものだと思います。努力するという能力、学び続けるというチカラ、これこそが「教師の条件」です。

さらに教職をめざす学生は学校ボランティアに積極的に参加しています。これは実際の学校現場に学び自らの意識・意欲を喚起しようとする進路選択・開拓の一つの取組です。そして、多くの学生が消防署が開講している救急救命の講習にも積極的に参加しようとしており、児童生徒の教育につかさどるという意識の高まりが見られます。

これらの取組が近い将来出会うであろう児童生徒を思い浮かべ、自らに価値を付加していき教職につく潜在的能力を引き出していくことを願っています。また、彼らの教育にかける情熱と使命感ある教育実践を期待してやみません。

教職教育センター 角野茂樹

合格者からのメッセージ

教員採用試験合格者から、引き続き多くのメッセージが寄せられました。今回は、学研都市キャンパスの学生からのメッセージもあります。

合格者の喜びの声をご紹介します。

【合格体験記】

中窪 恭子 さん 大阪府 高校 英語科 合格
外国語学部 英米語学科 4年生

皆さん、こんにちは。外国語学部英米語学科4回生の中窪恭子です。この度、大阪府の高校の英語教員として採用していただきました。私が教員採用試験に向けて勉強を始めたのは、留学から帰国し、教育実習が終わった6月下旬からでした。そのため、試験まで時間がなく、短期集中型で対策を行いました。また、留学帰国後は教員採用試験終了まで実家に戻っていたため、大学の自主ゼミや夜スぺに参加することができず、一人で勉強・対策を行いました。そんな私が教員採用試験に合格することができた理由を挙げるとすれば、以下の二つです。

一つ目は、日々の積重ねです。よく日々の積重ねが大切だといいますが、まさにその通りです。私は今までの大学生活において、一回一回の授業を大切にすることを心がけ、課題や試験には全力で取り組んできました。この日々の努力の積重ねのおかげで、教員採用試験の勉強を始めたときには、今まで教職関係の授業で習った内容はほとんど頭の中に入っていたので、短期間で試験に必要な知識を詰め込むことができました。また、留学中にアメリカの大学での授業についていくために必死で勉強したことは、英語の専門試験対策にも繋がりました。

二つ目は、大学外の活動に積極的に参加したことです。私は、大学内で積極的に人と交流を持つことはほとんどありませんでした。おそらく、大学とは人との交流の場というよりも学ぶ場であるという考え方が強かったためでしょう。その代わりに、私はさまざまな人々と交流するために大学外のイベントやボランティアに積極的に参加しました。読書会や新聞を読む会、芸術祭や展覧会のボランティアなどに参加することで、大学では得ることのできない知識や教養を身につけるだけでなく、さまざまな業種や年齢の方たちの話を聞くことで視野を広げ、自己を磨くことができました。これらの経験は、教員採用試験の面接においても、面接官の方々にアピールできるポイントになりました。

教員を志して採用試験を受験しようと考えている皆さん、ぜひ日々の授業を大切に、大学内だけでなく大学外でさまざまな人々と交流することで自己を磨いてください。そういう積重ねが、教員になるために大切だと私は考えます。皆さんのこと、応援しています。

檜原 凌 さん 大阪府 高校 英語科 合格

外国語学部 英米語学科 4年生

“Where there is a will, there is a way”

「意思あらば道拓く」、これは高校の学年目標であり、私も常に大切にしている言葉です。両親らが皆、教師ということもあり、幼少期からずっと「教師になる」という意思を持ち続け、遂に「教師という道」を拓くことができました。これから採用試験を受ける皆さんの参考になればと、私自身の経験、採用試験を通して学んだことを3点述べたいと思います。

① 教職教養は短期間で乗り切れる

私は1年間長期留学し、日本に帰国してすぐに教育実習、6月中旬に大阪へ戻り、そこから約15日間で教職教養を完成させました。留学先では英語力の向上、現地でしかできない経験をしたく、全く手をつけませんでした。この期間、朝から晩まで、人生で一番勉強したと言っても過言ではありません。その甲斐あって、本番で9.5割取ることが出来ました。私自身、参考書に書かれている内容を無機質的に暗記するのが性に合っていないので、複数の参考書や答申などを自分なりに読み解き、全分野、my参考書を作成しました。そのデータは角野先生に渡していますので、是非参考にして下さい。コツコツ取り組めば負担は少ないのですが、15日程度の勉強でも本気で取り組めば満点近い結果を取ることは可能です。

② 面接練習はしなくても問題ない

私は一度も面接練習を行っていません。しかし、面接の準備はぬかりなく行いました。「教育指導観」を基盤とし、想定される全ての質問に対する答えを考え、整理し、広げていきました。面接は練習回数ではなく、自身の経験・考えに比例していきます。内容が薄く、整理できていない状態では、いくら練習してもあまり意味はありません。私自身、サマセミ・KTAPなどを始めとする多くのボランティア、中高の部活動、2度の留学など語れる経験を数多くし、それらの整理・深化に全ての時間を費やすのみで、面接本番は何ら問題なく自分の言葉で語る事ができました。面接練習を何度も何度もこなすのではなく、教採までに何か語れる経験を積んで、それらを整理・分析することに時間を費やすべきだと考えます。

③ 英語力は想像以上に重要

私の周りの合格者を見てみると、長期留学した人は採用試験対策する期間は短かったはずなのにしていない人たちよりも、より多くの方が合格しました。留学と合格が因果・相関どちらなのかはわかりませんが、少なくとも「英語力」がその原因となっていることは間違いありません。留学へ行くにせよ行かぬにせよ、4技能を統合した英語力は想像以上に重要です。

以上3点述べさせて頂きましたが、少しでも皆さんの参考になれば幸いです。常に、「私は絶対に教師になるんだ」という強い意思を持ち続けて下さい。そうすれば、必ず「教師への道」は拓けるはずですよ。

前田 理沙 さん 大阪市 小学校 合格

英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コース 4年生

みなさんこんにちは！このたび大阪市で小学校教員として採用していただきました、小学校教員コースの前田理沙です。今回、採用試験に向けて私が意識したことに焦点を当てて二点書かせていただこうと思います。よかったら参考にしてください！

採用試験までの道のりは長く、私にとってモチベーションを保つのが難しかったです。そこで私が意識したことの一点目は、学校現場での経験を途切れさせないということです。採用試験間の勉強といえば机に向かって参考書を開いて…とイメージする方が多いと思いますが、決してそれだけではありません。子どもたちや現場の先生方とのかかわりの中から学ぶこともたくさんあります。机に向かって座学をしているだけでは本当に採用試験だけのための勉強になってしまうような気がしたので、四月から出会う子どもたちのために勉強しているんだと思いながら毎日過ごしていました。子どもたちからの一言や先生たちの姿からたくさん元気をもらいました。週に1回の半日を費やしても無駄になるとは一度も思いませんでした。むしろやる気が出て、勉強するエネルギーになっていました。

そして二点目は、一人でできることとみんなでしかできないことを分けて勉強することを意識していました。例えば私は理系教科が特に苦手だったので、一人でせずに周りの友達と一緒に勉強しました。また、ディスカッションや面接対策はみんなでアドバイスしあいながら一緒に練習しました。仲間を大切にしてくださいとよく聞くとありますが、本当にその通りです。仲間ががんばっているから一緒にがんばれました。落ち込んでいるときは励ましてくれました。お互いに高めあうことができました。一人で勉強するのももちろんいいですが、ぜひ仲間とともに勉強することも大切にしてください。

一人ひとりやり方があると思うので、私のやり方はあくまで一例です。私たちが卒業するまでまだ時間があります。ぜひ今の間に色々な先輩にアドバイスをもらってみてください！そして先生方や教職教育センターの職員の皆さんは必ずみなさんの力になってくださいます。採用試験までの間に落ち込むこともたくさんあると思いますが、みなさんにしか教えられないことやみなさんだからこそできることが絶対にあります。それを信じて、そしてこの恵まれた環境に感謝の気持ちをもって後悔のないように全力でやりきってください。みなさんが春に笑顔で夢を叶えられるように心から応援しています！

吉岡 裕平さん 大阪府/千葉県/愛知県 高校

英語科 合格

国際言語学部 4年生

初めまして。このたび、平成29年度教員採用試験におきまして、千葉県、愛知県、大阪府から合格を頂くことができました、国際言語学部、国際言語コミュニケーション学科の吉岡裕平と申します。このたびは、合格体験記を書かせていただけたということ、この場を借りて、私が試験を突破するにあたって大切だと

思ったことを2つ書かせていただきます。私の話が、少しでも皆さんにとって有意義で価値あるものになれば幸いです。

一つ目に、自分が今できること、そして不十分だと思うことをしっかり把握することが必要です。つまり、メタ認知力が非常に大切になります。採用試験は、教職教養、一般教養、専門、面接、小論文、実技試験、模擬授業等、複数の試験があり、さらにそれぞれの都道府県、自治体によってその特色は大きく異なります。特に、私のように複数の試験を受験しようと考えている人は、しっかりと自分の得手不得手を把握し、苦手な部分をいかに補っていけるかが非常に大切なポイントとなります。私の場合、留学経験等もないので、スピーキングに対してかなりの苦手意識をもっていました。逆に、面接試験や専門の筆記試験には自信を持っていました。ですので、実際に面接、専門筆記の勉強の時間を減らし、スピーキングや一般教養の時間を大幅に増やしました。得意なことを勉強するのは楽しいですし、それをさらに伸ばしていくことも、もちろん大切です。しかし、苦手なものがあることは、自身にとって計り知れない程の不安感を与えます。しかし、地道に、焦らずに毎日嫌でも時間を確保してトレーニングを重ねれば、この不安が自信に変わる時が必ず来ます。

二つ目に、加点や免除資格を少しでも取得しとくことが大切です。各都道府県、自治体によって、試験の免除の条件、加点方法は違いますが、少しでも取得できれば、試験を有利に進めることができます。私は予め受験する都道府県の免除、加点の条件を調べ、その獲得に向け動きました。実際、大阪府ではチャレンジテスト突破で筆記試験免除、さらにTOEICの点数で10点加点。愛知県ではTOEICの点数で二次試験実技免除を獲得しました。精神的にも、そして時間的な問題においても、余裕が出ました。英語の資格試験の級や点数によって、免除や加点が獲得できれば、それはさらに、専門性のアピールにもなり、一石二鳥です。ぜひ、チャレンジしてみてください。

最後に、Nelson Mandelaさんの言葉をお借りして、皆様に激励を送らせてください。「It always seems impossible until it's done.」（何事も成功するまでは不可能に思えるものである。）私自身も、現役で合格できるなんて思ってもみなかったですし、何度も挫折しかけてました。しかし、周りの支えもあり、最後まで諦めずに走り続けることができました。絶対に最後の最後まで諦めないでください。努力は蓄積されているはず。合格を得るまでは自信を持ってないかもしれませんが、合格すれば、その努力が自信に変わります。

山蔭 大貴さん 大阪府/岡山県 高校

英語科 合格

国際言語学部 4年生

皆さん、こんにちは。国際言語学部国際言語コミュニケーション学科4年の山蔭大貴と申します。この度、周りの先生方や仲間たちに恵まれ、大阪府と岡山県から採用をいただきました。このような機会をいただいたので、私の経験から少しでも後輩の皆さんの役に立てるような話ができればと思います。

私が、教員を目指したのは高校3年生の時です。高校時代は、野球部に所属し、部活動に明け暮れる日々を過ごしていました。大学に入学しても、なかなか目標に向き合うことができない日々でした。バイトやサークル活動といった大学生活にも甘えが生じ、気づけば大学3年生になっていました。正直、“ヤバい”と感じた私は、合格までの計画を立て、2つの柱を立てました。

まず1つ目が、メリハリのある生活を送ることです。勉強するときはしっかり勉強する、遊ぶときはしっかり遊ぶ。またボランティア、留学、サークル活動のようなやりたいこともすべて経験することをお勧めします。毎日毎日勉強して集中力がもつ人間は少ないと思います。適度に自分を甘やかし、次の集中力を確保することも一つの手段だと考えます。周りと自分を比較し、焦ってしまうこともあるかもしれませんが、自分に合った方法を見つけ、自分のペースで前に進むことが重要だと思います。

2つ目が、周りを競争相手として見るのではなく、同じ目標を持った仲間として見ることです。私は、努力は一人でするもの！周りには負けたくない！という思いを持っていました。もちろん、そのような思いも大切だと思いますが、仲間と協力し、助け合うことが合格への近道だと感じます。一人で勉強していても、それ以外の知識を得ることができません。お互いに声をかけ合い、仲間と協力することで効率も上がり、また集中力ややる気の向上にもつながります。サスペヤや夜スベに積極的に参加することを強くお勧めします。

皆さんもそろそろお気づきかもしれませんが、私ははじめから意識を高く持ち、教員を目ざせたわけではありません。自分の力だけではなく、周りの助けもあり、合格することができました。どうですか？この人が合格できた？私もできるかも？と思いませんか？できます！！まだきちんと目標に向き合っていない人や迷っている人でもまだ間に合います。人生の中で、本気で何かに取り組むことは、それほど多くはないと思います。しかし、今がその時です。自分を強く持ち、自分らしく合格に向けて頑張ってください。

最後になりましたが、皆さんが教員になれるよう、心から応援しています。同じ目標を持つ仲間と一緒に、後悔のないよう、全力で頑張ってください。

出倉 あさひさん 大阪府/岡山県 高校

英語科 合格

国際言語学部 4年生

みなさん、はじめまして。国際言語学部4年生の出倉あさひです。まずはこの場をお借りして、教員採用試験に合格するまでに多大なる支援をくださった先生方、職員のみなさまに感謝申しあげます。本当にありがとうございました。

教師を志し、日々精進されているみなさんに対して私からアドバイスをするのはとてもおこがましいので、3年生の頃の不真面目な自分に対して叱責の意味も込めたメッセージを送るつもりで以下の3つのことを書きます。

①「やる気」よりも「習慣」を大切にしてください

みなさんの中にも「やる気」はあるのに、思うように勉強に時間を割くことができなかつたり、何もせず一日を終えてしまう自分に嫌気がさしている人がいるかもしれません。当時の私もその一人でした。本屋で良い参考書を手にしては「やる気」に満ち溢れるのですが、少し時間が経つとそんなことは忘れ、趣味や遊びに没頭する毎日を過ごしていました。そんな自分を変えてくれたのが、「習慣」でした。毎日、最低でも1つは教職教養に関する条文を覚えたり、過去問を1題だけでも解くことを心がけました。1週間もすればそれが当たり前になり、よりまとまった量の勉強をすることが苦ではなくなりました。

「たった1つだけ!？」と思うかもしれませんが、教職教養だけでなく英語の勉強にも身が入らない人もぜひ1日1問や1日1単語から始めてください。やらないよりはやる方がマシです。「やる気」はも

もちろん必要ですが、勉強や仕事において何よりも大事なものは「習慣」だと思います。

②相手の立場になって物事を考えなさい

これは私の大切にしている教育理念なのですが、教員採用試験の面接時においてもとても役に立ちます。例えば「子どもに寄り添う教師になりたい」という答えを用意しているだけでは不十分です。その言葉を聞いてきくと面接官は「どのような取り組みや指導を念頭に置いていますか」と返してくるでしょう。また「塾講師のアルバイトで身につけた経験を学校現場でも活かしたい」と言えば、「塾と学校教育とは大きく違う。その違いは何か？」と面接官は返してくるかもしれません。このように何度も何度も自分の答えに問いを投げかけてみてください。自分が面接官だったとしたら、どのような人を採用したいかという視点をぜひ持ってください。そうやって磨きあげたあなたの言葉には、大きな説得力や信頼性が備わるはずですよ。

③思い立ったらすぐにやりなさい

ここまでの文章を読んで、「なるほど」と思ってインプットだけで満足してしまうと3年生の頃の私と同じになってしまいます。インプットよりもアウトプットが大切です。勉強を「習慣」にするための基礎をすぐに作り上げてください。面接官の気持ちになって面接の練習に取り組んでみてください。Never put off till tomorrow what you can do today. (今日できることを明日に先延ばしにするな) ぜひこの言葉を自分に言い聞かせながら、自分自信に打ち勝ってください。

これらのことが少しでもみなさんの教員採用試験合格の助けになれば幸いです。

太田 愛子さん 愛知県 中学校 英語科 合格

国際言語学部 4年生

勢いで走り続けてみたら、愛知県からの合格通知。偉そうなことは言えませんが私の体験を3つのポイントにまとめてお話しします。

1つめは、「自分の強み」をつくること。英語ができる、以外のことです。私は、スキー・インストラクターとして4年間子ども達に教えました。また、留学中、日本語の家庭教師をしました。これらを他の人にはない自分の強みとし、面接の時に生かしました。教える経験を通してぶち当たった困難や解決方法は、教員になった時にもきっと役に立つと思っています。

2つめは、「サイスペ」に行くこと。3回生の2月の時点では、本当に教採を受けるのか？と迷っていましたが、教採一本に絞る決断を下す事ができたのは、西村先生の熱い情熱に触れることができたからです。教職教養の勉強については、サイスペでやったことを覚えればほぼ完璧です。一人で勉強するよりも、はるかに効率が良いです。6限目は疲れていると思いますが、そこで同じ目標を持つ仲間に出会うこと、自分がどのレベルまでできているか確認することはモチベーションを高めるきっかけになります。

3つめは、「たくさん受験」すること。地元の新潟と大阪だけを受験する予定でしたが、西村先生の助言のもと、日程的に可能な新潟・大阪・滋賀・愛知の4府県を受験しました。それはいわば自分が「教員」になりたいのか、「〇〇県の教員」になりたいのかという選択をすることでした。確かに交通費など経済的負担はあります。精神的にしんどい点もありました。しかしそれ以上に4回の試験それぞれに向け、途切れる

ことなく勉強することができたので、私の飽きっぽい性格に合った戦略でした。焦って集中している時の伸びしろは無限大です。

最後に、合格・不合格どちらの通知も受け取った私の感想です。実は、合否の基準が今でも明確には分かりません。府県によって評価基準が、異なるのかもしれませんが。だからこそ、白黒つく筆記では点数を取ることに力を入れて頑張ってください！

鷺見 綾音 さん 兵庫県 中学校 英語科 合格
国際言語学部 4年生

みなさん、こんにちは。国際言語学部の鷺見綾音と申します。この度、兵庫県の中学校英語科教員として採用していただきました。まさか自分が現役で合格し、こうして羅針盤に自身の体験を書くことになるとは、本当に思っていませんでした。私が教員採用試験に合格できたのは、4年間支えてくださった先生方と、同じ教員を目指す先輩・友人たちです。本当に感謝しています、ありがとうございました。

これから教員採用試験を受験しようと考えている、2年生3年生の皆さん。きっと採用試験に向けての役に立つ情報は、ほかの合格者の方々が教えてくれます。しっかり読んで、吸収してください。私は、自分でどうにか合格できた、というより、周りの人にたくさん力を借りて合格できた、という感じです。本当にそう思えるほど、私は恵まれた環境で勉強することができました。それが、西村先生のサイズペです。

3年生の春、そろそろ採用試験に向けての勉強を始めなければ、と思ったものの、何から手を付けていいかわかりませんでした。けれど、何もしないわけにもいかない、そんな焦りから、とりあえず通い始めたのが、週2回の教員採用試験対策スペシャル講座『サイズペ』でした。教室全体がやる気に満ちていて、6限目で疲れているはずなのに、みんな笑顔で明るく帰っていく、そんな刺激的な90分でした。

私は3年生から通い始めたため、先輩方から多くのものを吸収することができました。1分間スピーチでは、先輩方の堂々とした姿勢・話し方に憧れると同時に、最後まで話さきれない自分に焦りを感じました。そんな時、西村先生や先輩方は決まって、「Don't be afraid of making mistakes. 間違ってもいいから、最後までやりきることが大事」、「自分も1年前は同じくらい話せなかった。けど、続ければ必ずできるようになるから大丈夫」と、教えてくださいました。実際、1年というのは本当に大きいようで、今では私も自信を持って、人前で話ができるようになりました。

教職教養などの勉強も同じで、初めは全くわからなかったものが、回を重ねるうちにわかるようになりました。また、何がわからないのかを知ることで、何を勉強すればいいかが見えてきました。何から始めたらいいかわからず、とりあえずで通い始めたサイズペが、どんどん私の前に道を作っていました。

私がこの羅針盤を通して皆さんに伝えたいことは、同じ目標を持った仲間を作り、一緒に頑張ってください、ということです。そしてサイズペには、そんな人たちがたくさんいます。帰りのバスで復習し合ったり、空き時間に勉強したり、不安を吐き出しあったり、仲間がいることで乗り越えられるものがたくさんあります。ぜひ、仲間をたくさん作ってください。皆さんの合格を、心から応援しています。

最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

蠓川内 里歩 さん 大阪府/千葉県 中学校

英語科 合格

国際言語学部 4年生

こんにちは。国際言語学部 4 回生の蠓川内里歩と申します。この度は多くの人の支えがあり、教員採用試験で大阪府と千葉県から合格をいただくことができました。私が教員採用試験を通して大切だと感じた 2 点を紹介したいと思います。

1 つめは、「何事も全力でやり抜く事」です。私は 3 回生の春学期から教職課程を取りはじめ、最初は卒業までに教職課程を取り終えるかという不安でいっぱいでした。しかし、教職課程の授業一つ一つが新鮮で、毎日新しい学びがあり、楽しく教育について、学ぶことができました。また、週一回のスクールボランティアにも参加し、教育現場の実情を知るようにしていました。このように忙しい毎日でしたが、教職課程の授業、それ以外の授業、ボランティア活動やアルバイト、すべて全力で取り組みました。そして、サイスペの存在です。私は 4 回生の春から本格的に参加し、周りとの差を非常に感じました。しかし、サイスペに参加している同志はみんな本気で、一人ひとりが違った教育論を持っていて、私も負けずと積極的に参加し、モチベーションを高めていきました。努力は裏切らない。という言葉があるように、やればやるだけ成果があると思います。自分の努力次第で先の未来が決まると思います。努力は計り知れませんが、自分が胸を張って努力した！！と言えるように準備することを毎日頑張っていたように思います。そして、私は最終面接を終えた時点で、結果に関係なくやりきった！と、胸を張って言えました。胸を張って努力した！やりきった！と言える自分になっていたのも、結果がどうであれ、後悔はしない。と感じていました。その努力が実った(合格した)とき、自信に変わったように思います。

2 つめは、「人との繋がり」です。教職課程を取りはじめてからたくさんの人との出会いがありました。同じ志を持ち語り合える仲間、アドバイスをしてくれる先輩、私たちを支えてくれる教職の先生方や、学務課の方々には本当にお世話になりました。特にサイスペでは面接練習を 1 対 1 で付き合ってくれる仲間や、夏休みも面接対策をくださった西村先生がいてくれたので、私は教員採用試験に向けて突き進んでこれたのだと感じます。しんどいと感じた時にもみんなの存在がいい刺激になり、頑張ることができました。みんなで頑張ろう！という雰囲気の中でやってこれた事にも感謝です。これからも外大生のネットワークや、先輩・先生方とのコミュニティーを大切にしながら新しい場所で、新しい人と出会い、自身のネットワークを広げていきたいです。

最後に、教員採用試験は本当に長い道のりです。しかし、この外大にはそれを最後まで熱く支援していただける環境が整っています。あとは、自分の気持ちと行動次第だと思います！私も今年の 4 月から教壇に立つと考えると不安と期待でいっぱいですが、コツコツ努力し、経験を積んでいきたいと思います！お互い日々 Brush up して頑張りましょう！！

シリーズ⑰「心の窓を少し開いて！」

短期大学部 教授 明石一朗

【やる気・根気・元気】

子どもにつけたい3つの「気」がある。それは、「やる気」「根気」「元気」である。何事も「やる気」が一番だ。食事でも食欲がないのにいくらご馳走を出されてもすすまない。

それと、じっくり物事に取り組むには「根気」もいる。そして、心身が健康な「元気」が生活の基本となる。

望ましい子どもの姿の根幹には、この3つの「気」を据えたい。

教育の究極の目的は、「人格の完成」で、知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」の育成である。海外に行って生きる力として求められるのは次の3つと言われる。

それは、

①現地の食べ物を好き嫌い無く何でも食べられること、②誰とでも友だちになれること。③何処でも眠られることだ。お金や物はあとからついてくる。

ここでも「健康」「仲間」「生活」がキーワードである。

そのためには、教育において「自分のことは自分でできる」ことと「人のために役に立つことができる」力を身につけることが重要である。学力とは学ぶ力である。何のために学ぶかと言えば、自分の人生を「よりよく生きるため」だ。教育は子どもたちに「自立」と「共生」の力を育む営みである。

野生のイノシシには、家畜の豚にはない3つの力があるという。

それは、①獲物を捕る力、②敵や自然災害などの危険から身を避ける力、③群れの中で過ごす力である。

つまり、人間で言えば、経済力、危機回避能力、コミュニケーション力である。

今の子どもたちに求められる力でもある。

編集後記———教職教育センターより———

まもなく節分ですが、節分は立春・立夏・立秋・立冬の前日を指します。旧暦で立春の頃が一年のはじめとされ、重要とされていたので節分といえば立春の前日を示すようになりました。

節分は、古くから行われ地域に根差しているため、大豆ではなく、落花生を投げる地域やお菓子を投げる地域など地方ルールもあるようです。